

令和3年3月9日(火)

式 辞

樹木の芽吹きや日差しの暖かさに、春の訪れを感じるようになり、若鳥の巣立ちの季節がやってまいりました。本来ならば、白井市長の笠井喜久雄（かさい きくお）様を始めとする、多くの御来賓をお招きしてお祝辞を頂戴するところではありますが、時節柄、それも叶わず、皆様には誠に申し訳なく存じます。しかし、数々の制約を乗り越え、本日、ここに第三十六回の卒業証書授与式を挙行し、本校の課程を修了した二百十三名の方々に、卒業証書を授与できましたことは、校長として喜びに絶えません。同時に卒業生諸君、また、御列席の保護者各位には、今日の良き日を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。特に保護者の皆様、数々の出来事を、感慨深く思い起こしておられると拝察いたしますが、三年前に入学されたお子様方も、このように立派に成長されて巣立っていかれます。これまで、本校の教育活動に御理解と御協力をいただき、ありがとうございました。お子様方の蛍雪の功を、職員一同、讃えてやみません。

さて、卒業生の皆さん、古代中国の思想家である孔子の言葉に「苗にして秀でざる者あり。秀でて実らざる者あり。」という言葉があるのを御存じですか。孔子は人間の成長を植物の生育に例えています。つまり、「苗にして秀でざる者」とは、芽を出して苗にまで成長したのに花を咲かせることのない人物を指し、「秀でて実らざる者」とは、花を咲かせても果実を実らせることのできない人物を意味します。素質は良いものを持っているのに、花を咲かせない若者、実をつけることなく終わってしまう若者を見て、本人の努力不足を嘆いているのです。今日、卒業証書を手にした皆さんは、苗にして秀でざる者ではなく、秀でて実らざる者でもなかったということになります。どうぞ誇りを持って、胸を張って新生活に臨んでください。

ただし、あえて申し上げますが、花が咲いた、実がなると満足すれば、人間の成長はそこで止まってしまうものと、私は考えます。より美しい花を、より大きな果実を求めて自分自身を鍛える気持ちを失ってはなりません。若い皆さんは学ぶこと、身に付けることがまだまだたくさんあるはずです。謙虚に、どこまでも謙虚に、大学や専門学校の先生方、職場の先輩方の教えを受けてくださることを期待します。皆さんがそれぞれの場で、活躍してくださることを願い、未来に多くの幸せが訪れることをお祈りします。

結びに、御多用の中、御臨席いただきました保護者の皆様に、改めてお礼を申し上げ、式辞といたします。

令和三年三月九日
千葉県立白井高等学校長
野澤 則之